

付 属 資 料





付属資料

第6次高松市総合計画策定経過

年月日	会 議 等	摘 要
平成25. 6.24 ～26. 3.20	次期総合計画基礎調査等業務委託	
25. 7.19 ～10.16	市民意識調査・事業所意向調査・ 有識者意向調査	回答数 市 民 1,894人 (回答率 45.1%) 事業所 155社 (回答率 31.1%) 有識者 106人 (回答者 53.0%)
26. 5.26	政策会議	高松市総合計画策定要綱 (案) を決定
26. 6.20	総務消防調査会	高松市総合計画策定要綱 (案) を説明
26. 6.25 ～28. 3.20	次期総合計画策定支援業務委託	
26. 6.26	総合計画策定に関する局課長会の開催	総合計画策定の作業開始
26. 6.16 ～ 6.27	ラウンドテーブル参加者の公募	NPO等団体推薦 15人 応募者24人 (一般10人、大学等14人)
26. 8. 6 ～ 8. 8	職員ワークショップの開催	推薦者 60人 応募者 13人
26. 8. 6 8.20 9. 3	ラウンドテーブルの開催	まちづくりの3つのテーマについて意見交換
26. 8. 6 ～27. 3.20	ビッグデータ活用支援業務委託	
27. 1.13 ～ 1.26	市民アンケート (総合計画の施策目標 の妥当性等について)	回答数 市民1,887件 (回答率44.9%)
27. 2.12	平成26年度第1回総合計画策定連絡調 整会議	総合計画構成及び体系 (案) に係る意見の取 りまとめについて
27. 2.26	政策会議	総合計画の構成及び施策体系 (案) を決定
27. 3.16	総務消防調査会	総合計画の構成及び施策体系 (案) を説明
27. 4.24	平成27年度第1回総合計画策定連絡調 整会議	総合計画の構成及び施策体系 (案) について
27. 5.15 ～ 5.29	総合計画審議会委員の公募 (委員25人中5人)	応募者9人 たかまつ創生総合戦略懇談会委員を兼任
27. 5.22	平成27年度第2回総合計画策定連絡調 整会議	総合計画基本構想素案 (案) 等に係る依頼事 項について
27. 6.11	政策会議	総合計画基本構想素案を決定
27. 6.23	平成27年度第3回総合計画策定連絡調 整会議	総合計画基本構想素案について
27. 6.24	議員全員協議会	総合計画基本構想素案を説明

年月日	会 議 等	摘 要
平成27. 7. 1 ～ 7.31	総合計画素案についてパブリック・コメントの実施	意見件数38件
27. 7.13 ～ 7.29	市民と市長の意見交換会	市内7会場、参加者数303人
27. 7.30 ～ 8. 7	総合計画素案等説明会	市内7会場、参加者数146人
27. 8. 7	平成27年度第4回総合計画策定連絡調整会議	総合計画基本構想原案の中間報告について
27. 8.25	政策会議	総合計画基本構想原案を決定
27. 9. 3	議員全員協議会	総合計画基本構想原案を説明
27. 9. 7	総合計画審議会（第1回）	市長から総合計画基本構想案を諮問
27. 9. 7 ～10. 2	総合計画原案についてパブリック・コメントの実施	意見件数14件
27. 9.25	総合計画審議会（第2回）	総合計画基本構想案について審議及び意見のとりまとめ
27.10.10	総合計画審議会（第3回）	答申案について協議
27.10.31	総合計画審議会（第4回）	市長に対し答申
27.11. 6	平成27年度第5回総合計画策定連絡調整会議	総合計画（案）について
27.11.13	政策会議	総合計画基本構想案を決定
27.12.17	平成27年第5回市議会定例会総務消防 常任委員会	総合計画基本構想を可決
27.12.21	平成27年第5回市議会定例会本会議	総合計画基本構想を可決
28. 2.19	政策会議	まちづくり戦略計画（平成28年度～30年度） を決定



付属資料

第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について（諮問）

高 政 第 66 号

平成27年9月7日

高松市総合計画審議会

会長 佃 昌道 殿

高松市長 大西 秀人

第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について（諮問）

高松市総合計画審議会条例第1条の規定により、第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について、貴審議会の意見を求めます。



第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について（答申）

平成27年10月31日

高松市長 大西 秀人 殿

高松市総合計画審議会

会長 佃 昌道

第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について（答申）

平成27年9月7日付け高政第66号をもって諮問を受けた第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案について、活発かつ精力的に審議を行った結果、おおむね妥当であると認め、別紙のとおり答申します。

答 申

高松市は、本格的な分権時代の到来や少子・高齢化の進展等、地方自治体を取り巻く環境の変化に対応し、健全で持続可能な行財政運営を推進するため、平成17年度に近隣6町と合併して10年が経過しました。そして、市内全域で、コミュニティを軸として個性をいかした魅力あるまちづくりが進められているところです。

一方、国においては、人口減少、少子・超高齢社会に対応し、東京圏への過度な人口集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保することにより、将来にわたって活力ある日本社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生法を制定したところであり、高松市においても、本年度、「たかまつ創生総合戦略」を策定しています。

今後、様々な社会環境の変化にも対応し、将来にわたって市民が地域に誇りを持ち、いきいきと暮らし続けることができる社会の実現に、市民や企業・NPOなどが行政と一体となって取り組んでいかななくてはなりません。

このような中、当審議会が諮問を受けた第6次高松市総合計画（仮称）基本構想案は、高松市の将来展望を示す目指すべき都市像とまちづくりの目標を示すもので、様々な年代や産官学金労言を始めとした分野の委員で構成された当審議会において、高松らしい取組を基本構想案に反映させて、総合計画の推進により活力ある市政運営が図られるよう、各委員の見識と経験を踏まえた意見を語り合い、熱い思いで精力的に審議を重ねてまいりました。

その結果、今回の基本構想案は、目指すべき都市像とそれを実現していくためのまちづくりの目標、具体的な政策、施策、取組方針が明らかにされており、市民誰もがわかりやすく、また、まちづくりの方向性がおおむね妥当であると認め、ここに答申するものです。

なお、審議の過程において提出された多くの意見、要望を基に、当審議会の総意として、次の点について、意見を付すことにより、総合計画の施策の推進に当たり、市民と行政が共に同じ目標に向かって取り組めるよう、これらの意見を十分に尊重されるよう強く要望します。



付属資料

総 括

高松市は、これまで瀬戸内海との深い関わりの中で発展し、文化芸術などの持つ創造性をいかした創造都市の推進により、訪れた人々との交流を活発に行ってきたところであるが、これから、豊かな地域資源をいかして市民主体のまちづくりを推進するため、目指すべき都市像である「活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松」の実現を図られたい。

全ての市民が心豊かな生活を送ることができるよう、一人一人の多様性を尊重し受け入れる（ダイバーシティなど）という視点を大切にしたまちづくりを進められたい。

豊かな自然環境と、経済をけん引する都市機能をあわせ持つ高松市の特性をいかして、国際的な視野の下、人と物と情報が行き交い、新たな経済活動が生まれてくるようなまちづくりを進められたい。

瀬戸内国際芸術祭を始めとした国際的なイベントなどを通じて、国内及び国外の人との交流を大切に、市民が生活する地域に誇りと愛着が増すようなまちづくりを進められたい。

自然災害による被害を最小限にとどめるとともに、交通事故などの人為的な災害を未然に防止できるよう、市民が住みやすさを実感できるまちづくりを進められたい。

環瀬戸内海圏における高松市の拠点性を高めるだけでなく、常に広域的な視野を持ち、近隣自治体のけん引役としての役割が果たせるようなまちづくりを進められたい。

市民の積極的な関わりにより、各地域コミュニティの活性化が図られるよう、自治の基本理念に基づく市民主体のまちづくりを進められたい。

「たかまつ創生総合戦略の推進」、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏の形成」及び「多核連携型コンパクト・エコシティの推進」については、複合的、戦略的に、また、相互に連携を図るなど、積極的に取り組み、人口減少、少子・超高齢社会への対応を進められたい。

まちづくりの 目標1 健やかにいきいきと暮らせるまち

- 1 まちづくり全般にわたり、子ども、高齢者、障がい者を始め、地域で暮らしている全ての人
が、自分の力を主体的に発揮できる取組を進められたい。
- 2 これまで家庭や地域において行われてきた世代間交流について、時代に即した交流が実現で
きるような居場所を整備するとともに、そこに集う人と人をつなぐコーディネーターの育成
に取り組まれたい。
- 3 誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、いきいきと暮らせる共生社会の実現に向けて
情報収集し、新たな共生のモデルケースを実施し、その成功事例の情報発信や、更なる推進
に取り組まれたい。

まちづくりの 目標2 心豊かで未来を築く人を育むまち

- 1 男女共同参画社会形成のため、基本的人権としての男女平等の実現に向けた取組を着実に進
めることはもとより、ワーク・ライフ・バランスの推進を通じて、女性の就業継続と参画の
促進に取り組まれたい。
- 2 社会を生き抜く力を育む教育の充実においては、子どもの確かな学力の育成や教員の資質向
上と教育体制の充実など学校教育の充実とともに、家庭及び地域における教育力の向上に取
り組まれたい。
特に、地域コミュニティを中心とする子育てや教育を支えている活動は、一層推進されたい。
- 3 生涯学習の推進においては、学びたい意欲を持つ全ての人の希望に応えられる教育の充実と
ともに、地域で活躍してもらえる人材を育成するための再教育につなげる取組をしていただ
きたい。

まちづくりの 目標3 産業の活力と文化の魅力あふれる創造性豊かなまち

- 1 海外から日本の食や文化への注目や期待が高まっていることから、国際的に通用する産品販
路の構築及び拡大とともに、海外マーケットへの販路拡大に対して迅速かつ柔軟に対応する
ことができる人材の育成に戦略的に取り組まれたい。
- 2 文化や芸術に加え、女性の視点をいかしたものづくりなど、様々なものに対して複合的な視
点を加えた独自性を高め、企業誘致を始め、市内企業の事業拡大支援、若い人でも起業しや
すい環境づくりにより、働きやすい就業環境の整備に取り組まれたい。
- 3 生涯を通じて、健康の保持・増進やレクリエーションなどを目的とした生涯スポーツや、ス
ポーツ技術や記録の向上を目指した競技スポーツなど、スポーツの持つ多様な側面をいかし
た振興に取り組まれたい。
- 4 訪日外国人旅行者は、増加の一途をたどっていることから、その受け入れ態勢を強化し、外
国人観光客等の誘致を図られたい。
また、多種多様な観光戦略の中でも、開催地域を中心に大きな経済波及効果が期待できる
MICE（マイス）の誘致に戦略的に取り組まれたい。



付属資料

まちづくりの 目標4 安全で安心して暮らし続けられるまち

- 1 安全で安心して暮らせる社会環境を形成するため、救急車の適正利用、交通安全、防犯等についての啓発、国・県との災害時の連携と連絡体制について、実情に即した効果的な取組を進められたい。
- 2 環境と共生する持続可能な循環型社会を形成するため、市民の環境への関心を高め、発生抑制、再使用、再資源化による廃棄物の減量化や、今後、設備の技術向上が見込まれる再生可能エネルギーの更なる普及のほか、将来を見据えた取組を推進されたい。
- 3 豊かな暮らしを支える生活環境を向上させるため、国・県との役割分担を適切に行う中で、地域の実情を踏まえた防災施設、道路、公園等の社会基盤の整備を実施されたい。
また、安全な水道水の安定供給や、汚水処理人口普及率の向上に努められたい。

まちづくりの 目標5 環瀬戸内海圏の中核都市としてふさわしいまち

- 1 都市機能の集積と市街地の拡大抑制という理念に基づき、長期的な視点を持って、効果的な規制・誘導策を具体的に検討し、取組を進められたい。
また、瀬戸内海に面し、多様な地域資源を持つ島しょ部を有するという本市の特性を踏まえて、海上交通も含めた交通ネットワークを活用した地域の活性化を進められたい。
- 2 適正な土地利用の推進のため、持続可能なまちづくりという長期的なビジョンの下、土地利用の動向に対して具体的な方策を検討されたい。
また、市民に多核連携型コンパクト・エコシティの理念が広く浸透するよう、工夫をこらした効果的な周知・啓発に努められたい。
- 3 全ての市民が過度に自動車に依存しないライフスタイルを実現できるよう、公共交通機関の利便性向上を図るとともに、自転車や電動車いす等を主な移動手段としている人々も視野に入れて、まちづくりが展開できるよう、地域を始め交通事業者などの関係者の理解と協力を得て、将来を見据えた本市にふさわしい交通体系の構築について検討されたい。

まちづくりの 目標6 市民と行政がともに力を発揮できるまち

- 1 地域コミュニティの充実が求められている中で、若い世代が地域コミュニティに積極的に参画できる体制づくりや地域コミュニティ協議会同士のネットワークづくりに取り組み、地域の活性化を図られたい。
- 2 市民主体のまちづくりが推進できるよう、市政に関する情報を共有し、市政へ市民が参画し、市民と行政の協働を深めるとともに、地域のリーダーとなる人材の発掘や育成に努められたい。
- 3 国内外の事例を参考にしながら、地域の特性をいかしたコミュニティとなるよう、戦略的かつ積極的に取り組まれたい。
また、成功した取組事例は、コミュニティ同士で相互の情報交換を行い、全てのコミュニティの活性化を図られたい。
- 4 まちづくりを複合的に考えるためには、戦略性及び政策連携を取り入れ、県及び近隣市町と連携し、圏域全体の生活関連機能サービスの向上を始め、経済成長や高次の都市機能の集積・強化に資する事業に取り組まれたい。

高松市総合計画審議会委員名簿

区 分	氏 名	役 職 等
会 長	佃 昌道	高松大学 学長
副 会 長	野田 法子	高松市婦人団体連絡協議会 会長
委 員 (50音順)	上田 利枝	公募委員（一般社団法人キラメキ社会福祉士事務所 代表理事）
	上原加代江	高松市PTA連絡協議会 相談役
	国見香須子	公募委員（アスパラ大騒ぎ実行委員会 主宰）
	桑井 弘之	株式会社四国新聞社 執行役員 編集局長
	桑村美奈子	公募委員（地域イベントプロデューサー）
	坂口 祐	公募委員（デザイナー／物語を届けるしごと）
	佐野 正	公益財団法人高松観光コンベンション・ビューロー 理事長
	白薊 敬三	株式会社香川銀行 執行役員 営業店統括部長
	鈴木 義博	日本労働組合総連合会香川県連合会 事務局長
	高嶋 伸子	香川県立保健医療大学 教授
	滝川 三郎	高松市コミュニティ協議会連合会 会長
	竹内 麗子	一般社団法人香川経済同友会 副代表幹事
	徳倉 康之	公募委員（株式会社ファミリーエ 代表取締役）
	中橋恵美子	NPO法人わははネット 理事長
	西岡 敦子	高松市医師会 理事、女性医師部長
	花澤 均	香川県農業協同組合 経営管理委員
	原 真志	香川大学大学院地域マネジメント研究科 研究科長
	藤本 実紗	四国運輸局企画観光部交通企画課 課長
	古川 康造	高松丸亀町商店街振興組合 理事長
	槇田 實	高松商工会議所 常議員、地域振興委員会委員長
	眞鍋 邦大	株式会社四国食べる通信 代表取締役
	柳 富夫	四国経済産業局産業部商業・流通・サービス産業課 課長
	頼富 俊哉	株式会社百十四銀行 執行役員 営業統括部長
オブザーバー	淀谷圭三郎	香川県政策部政策課 課長



付属資料

ラウンドテーブルの開催結果

総合計画の策定に当たり、多様化する市民の声をまちづくりに反映させるため、「人口減少の時代において持続可能なまちを維持するために」を共通テーマに、ラウンドテーブルを3回開催しました。

3つの世代グループが、各世代間の意見の違いを大切にしつつ、自由に活発な意見交換を行いました。

1 実施概要

	日 時	話し合ったテーマ	会 場
第1回	平成26年8月6日（水）	子育てしやすいまちづくり 若者が住みたいまちづくり	高松市役所
第2回	平成26年8月20日（水）	住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくり	四番丁スクエア
第3回	平成26年9月3日（水）	高松の魅力を生かしたまちづくり	高松市役所



活発な意見交換

2 ラウンドテーブルで話し合ったテーマと主な意見

◎人口減少の時代において持続可能なまちを維持するために

●子育てしやすいまちづくり

子育て環境をより良くするための条件として、「子どもの遊び場（公園）の充実」「保育環境の充実」「高齢者の活用」という意見が出ました。

●若者が住みたいまちづくり

若者が住み続けるために必要な条件として、「交通の利便性」「商業施設の集約」「雇用の安定」という意見が出ました。特に大学生からは、「子育て環境の整備」「田舎を活用した暮らしの推進」「地域コミュニティの強化」「娯楽施設の充実」が必要という意見がありました。

●住み慣れた地域で安全に安心して暮らせるまちづくり

高松市の課題として、「地域におけるリーダーの育成」「地域コミュニティへの参加」「防災対策」「交通マナーの向上」が挙げられました。

交通マナー向上のために必要なこととして、「地域における活動」「民間企業における活動」「横断歩道など設備の充実」「取締りの強化」という意見が出ました。

地域におけるリーダーの育成のための方策としては、きめ細やかな情報共有や、地域における当事者意識を持つための仕組みづくりが必要とのことでした。

◎高松の魅力を高めるために

高松の魅力を話し合った後、その魅力を高めるための方策を話し合いました。

高松の魅力では、「自然環境の豊かさ」や「うどん」を始めとした観光資源、「コンパクトなまち」などの項目が挙げられました。

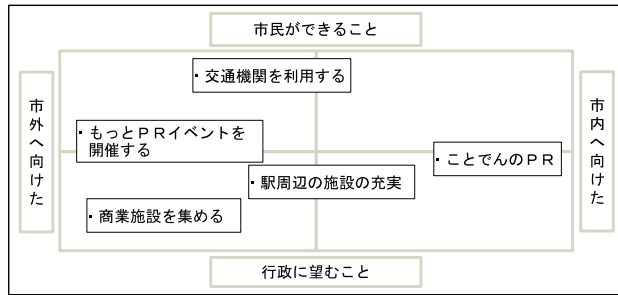
その項目の中から各グループ2つの魅力を取り上げて、それぞれの魅力を高めるにはどうしたらよいかという小テーマで「方策の対象者」と「方策の実施主体」の2つの視点から整理し、次のような図にまとめました。

グループ		選択した魅力	
大学生グループ	A	①会場までのアクセスが良い	②島が近くにたくさんある
	B	③希少糖	④PRできるキャラクターが多い
40歳未満グループ	A	⑤地域活動への関心が高い	⑥災害が少ない
	B	⑦海	⑧まち
40歳以上グループ	A	⑨ ^{いしょくじゅう} 医職充（医療・職業の充実）が確保しやすい ⑩公共交通が充実している	
	B	⑪四国内外とのアクセスが便利（駅・IC・港・空港がコンパクトにまとまっている。） ⑫都会と自然がコンパクトに調和している	

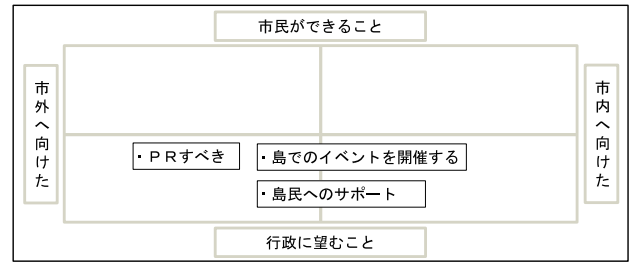


付属資料

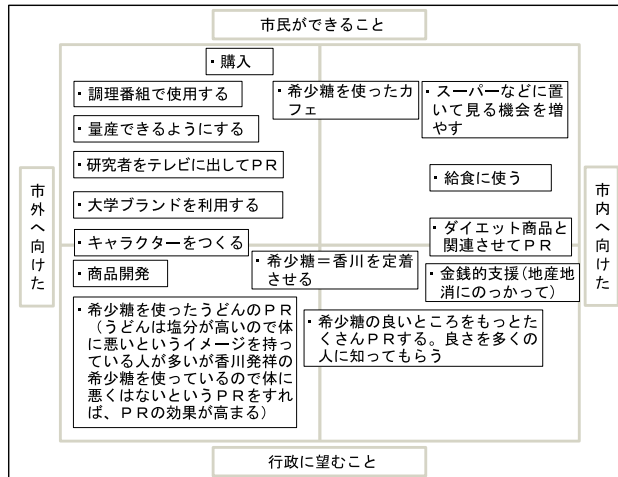
① 会場までのアクセスが良い



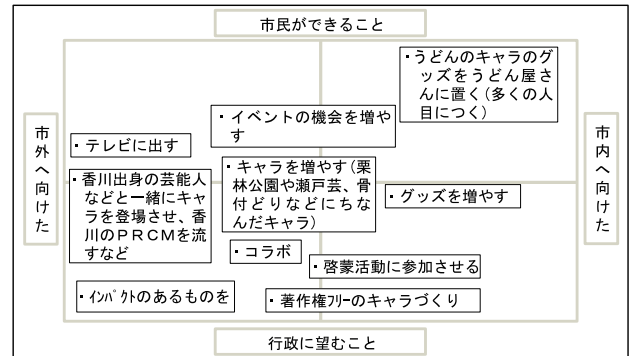
② 島が近くにたくさんある



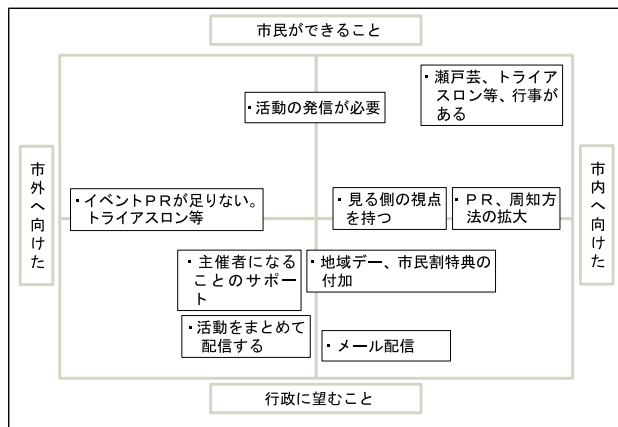
③ 希少糖



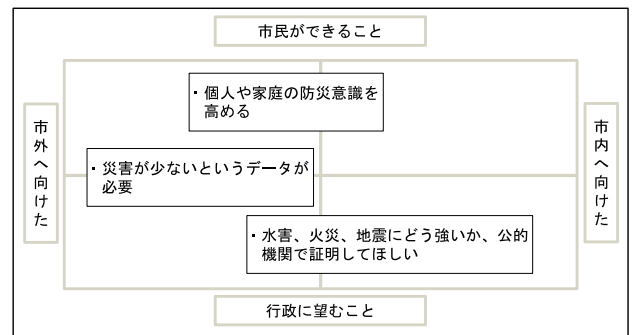
④ PRできるキャラクターが多い



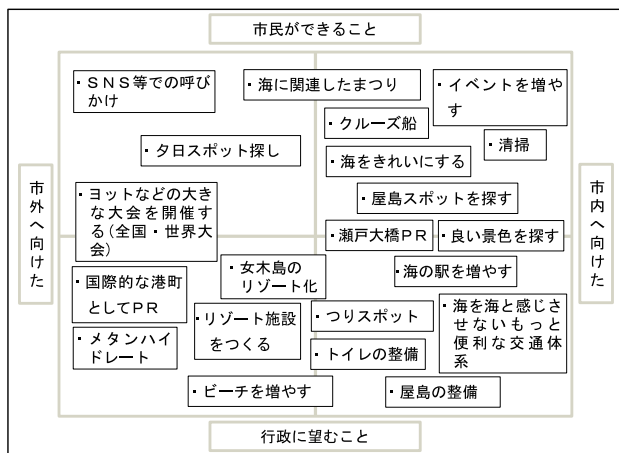
⑤ 地域活動への関心が高い



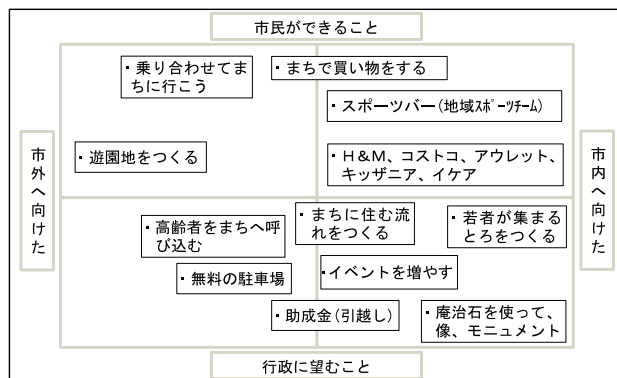
⑥ 災害が少ない



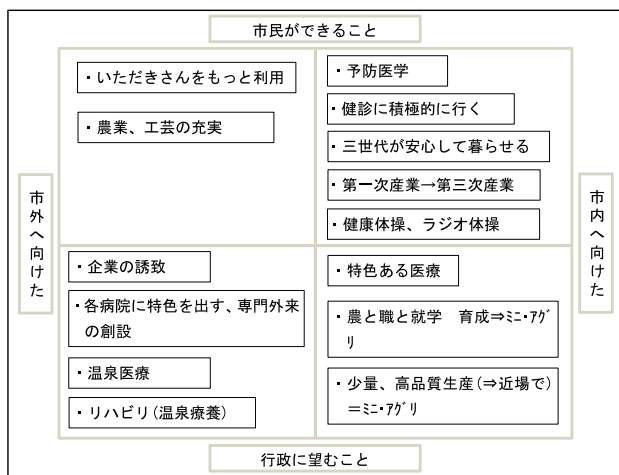
⑦ 海



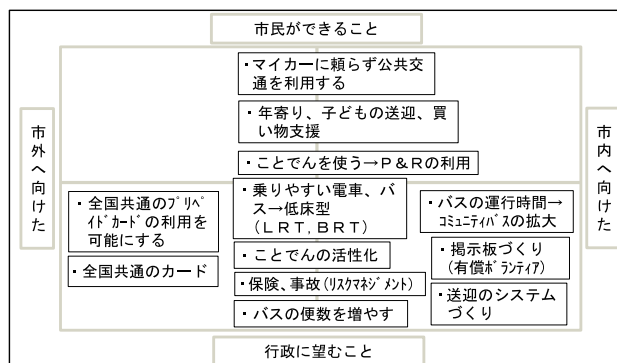
⑧ まち



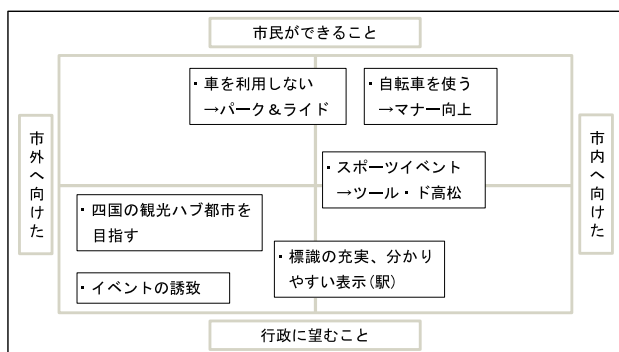
⑨ 医職充（医療・職業の充実）が確保しやすい



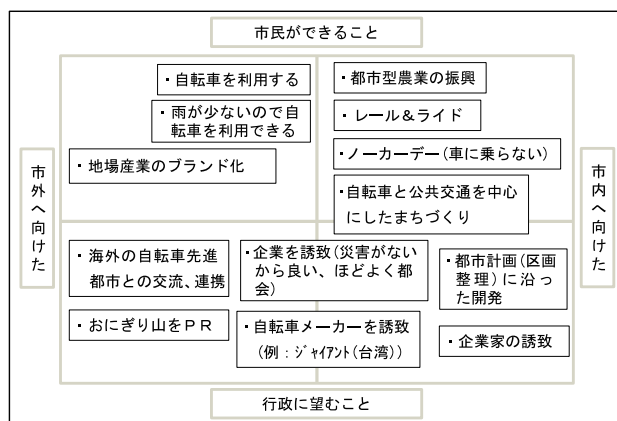
⑩ 公共交通が充実している



⑪ 四国内外とのアクセスが便利



⑫ 都会と自然がコンパクトに調和している





付属資料

3 参加者名簿（敬称略）

大学生グループ

No	氏 名	大 学 名
1	赤松 桃佳	高松短期大学
2	井上 麻祐	香川大学
3	今泉 賢	香川大学
4	梅田 涼平	香川高等専門学校
5	柿原 祐介	香川高等専門学校
6	莊 真奈美	香川大学
7	行成 優子	香川大学
8	高橋 梓	香川大学
9	中塚 誠人	香川高等専門学校
10	中西 真矢	香川高等専門学校
11	野口 智子	高松短期大学
12	藤本 真望	香川大学
13	山下 春香	香川大学
14	横田 彩加	香川大学

40歳未満グループ

No	氏 名	推薦団体名
1	石 紅梅	香川大学大学院地域マネジメント研究科
2	岡田 敬祐	公募
3	落合 信之	公益社団法人高松青年会議所
4	総谷 浩晃	高松市PTA連絡協議会
5	鎌田 長明	公益社団法人高松青年会議所
6	渋谷 亮宏	一般社団法人香川経済同友会
7	小久見早苗	NPO法人アーキペラゴ
8	澄川慎一郎	香川大学大学院地域マネジメント研究科
9	田村 遊	公募
10	二川 晃一	公益社団法人高松青年会議所
11	矢野 正登	公募
12	山田多美子	高松市婦人団体連絡協議会
13	岡田 仁陽	公募

40歳以上グループ

No	氏 名	推薦団体名
1	石川 満枝	高松市婦人団体連絡協議会
2	上田 利枝	公募
3	国見香須子	NPO法人アーキペラゴ
4	古賀 法昭	高松市コミュニティ協議会連合会
5	田頭 善郎	公募
6	谷本 謙次	高松商工会議所青年部
7	中村 友美	公募
8	林 和代	公募
9	平澤 孝	“ぐるっと高松” 公共交通を育てる会
10	三井 利員	公募
11	三好万友美	高松市PTA連絡協議会
12	森 美和	公募

用語の解説

用 語	解 説
ART SETO UCHI (アート セトウチ)	「瀬戸内国際芸術祭」を3年ごとに開催するとともに、芸術祭開催年以外においても1年を通じた発信・誘客のための活動。
ICT (アイシーティー)	Infomaition and Communications Technologyの略。情報通信技術のこと。
移住フェア	移住・交流希望者を積極的に受け入れている約120の地方公共団体等がブース出展し、地域の情報提供や田舎暮らし相談を行うもの。
依存財源	地方交付税のほか国庫支出金・地方譲与税・都道府県支出金など、地方公共団体などが、中央政府や上層の地方公共団体に依存するかたちで調達する財源。
SNS (エスエヌエス)	Social Networking Serviceの略。自分の趣味・生活などのことを互いに公開する等、幅広いコミュニケーションを取り合うことを目的としたコミュニティ型のWeb(ウェブ) サイトのこと。一般的に、Facebook(フェイスブック)、Twitter(ツイッター) などが知られている。
LED (エルイーディー)	大型ディスプレイや電球等に使われる発光ダイオードのこと。これを用いた電球は、寿命が長く、消費電力が白熱電球より経済的と言われている。
海園・田園都市	海・野・山をいかし、島・街・里が一体的に融合した都市のこと。海園都市は、「広域拠点あり方検討委員会」の報告書で新たに出てきた造語で、都心と島の相互補完によるスローで高感度な瀬戸内スタイルの生活圏の形成と、ウォーターフロントにおける魅力ある空間づくりによって、世界にもアピールできるオンリーワンの顔づくりを推進しようとするもの。
学校評価	学校の組織的・継続的な改善を目的として各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価すること。
既存ストック	これまでの整備・供給により蓄積された資源のこと。ここでは、主に住宅などの建築物、道路・公園・学校などの公共施設を指す。
グローバル化	地球的な規模で、人、物、資本、情報などが様々な形で結びつくこと。
健康寿命	健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のこと。
県内水道広域化	将来にわたり、安全な水を安定的に供給していくため、香川県内水道事業を統合し、香川県広域水道企業団(仮称)の設立を目指すもの。
交流・定住人口	交流人口とは、その地域に訪れる(交流する)人のことで、定住人口に対する概念。定住人口(又は居住者・居住人口)とは、その地域に住んでいる人のこと。
コンプライアンス	自らの行動が市政の信用に影響を及ぼすことを認識し、常に法令等を遵守するとともに、組織のルール、社会の一般的な常識や高い倫理観に基づき、市民から信頼される職員であるよう、行動すること。
産・官・学・金・労	産業界・市町村や国の関係行政機関・教育機関・金融機関・労働団体をいう。メディアを加えて、(産官学金労言)ということもある。
自主財源	地方税・手数料・使用料・財産収入・寄付金など地方公共団体が自主的に調達できる財源。
市政出前ふれあいトーク	市政の仕組みや現在取り組んでいる施策・事業、今後の検討課題等について、職員が地域へ出向き説明するもの。



付属資料

用語	解説
社会保障・税番号制度	複数の機関に存在する特定の個人の情報を同一人であるということの確認を行うための基盤であり、社会保障・税制度の効率性・透明性を高め、国民にとって利便性の高い公平・公正な社会を実現するための社会基盤（インフラ）のこと。マイナンバー制度のこと。
社会保障費	医療保険や年金制度などの社会保険、老人福祉を中心とする社会福祉、介護、生活保護などの社会保障制度のために国や地方公共団体が支出する費用のこと。
少人数学級編制	安定した学級で個に応じた分かる授業を展開し、確かな学力の定着に努めるため、少人数学級を推進すること。
集約拠点	高松市都市計画マスタープランに位置付けられた将来都市構造の構成3要素の一つである「拠点」を機能別拠点とともに構成するもので、広域交流拠点（中心市街地の1地区）、地域交流拠点（8地区）及び生活交流拠点（8地区）から成る。
スクールガード・リーダー	市立認定こども園・幼稚園・小学校に派遣され、登下校時を中心とした巡視活動、通学路や校区における危険箇所の指摘やその改善に対する助言、地域の学校安全ボランティアへの指導等を行うために、教育委員会から委嘱された防犯の専門家（警察官OB等）のこと。
スクールソーシャルワーカー	社会福祉等の専門的な知識や技術を有し、生徒が置かれた様々な環境への働きかけや、関係機関等のネットワーク等を活用するなど、問題を抱える生徒について、対応策を立て、問題解決を図る専門職のこと。
スローライフ	生活様式に関する思想の一つ。ファストフードに対して唱えられたスローフードから派生した考え方で、大量生産・高速型のライフスタイルに対して、ゆっくりした暮らしを提案するもの。Slow livingに相当する和製英語。
瀬戸内国際芸術祭	平成22（2010）年から3年に1回、「海の復権」をテーマにして、島の住人と世界中からの来訪者の交流により島々の活力を取り戻すことを目指し、瀬戸内海の島々を舞台に開催される現代アートの祭典。
多核連携型コンパクト・エコシティ	都市機能の集積と市街地の拡大抑制によるコンパクトな都市構造及び人と環境にやさしい公共交通を基軸とした環境共生都市のこと。
高松国際ピアノコンクール	平成18（2006）年から4年に1回、高松から世界レベルの音楽を発信すること、地域の活性化、音楽文化の振興、文化的な国際交流の推進などを目的に、サンポートホール高松で開催されるピアノコンクール。
巧水（たくみ）	国、経済団体、NPO等が一丸となって水問題に取り組む「チーム水・日本」の行動チーム「巧水スタイル推進チーム」（節水意識の向上と節水機器の普及に取り組んでいる）に由来し、水を巧みに使い、水を大切に使う高松を目指し、「巧み」の「巧」と「水」をつなげて「たくみ」とした造語。
多言語メルマガ	多言語メールマガジンの略。二種類以上の言語で、発信者が定期的にメールで情報を流し、読みたい人が購読するようなメールの配信の一形態。
地域コミュニティ協議会	高松市自治基本条例第23条に規定される公益団体。市民が地域の個性をいかし、自主的、自立的に地域のまちづくりに取り組むため、その地域に住む人や団体などを構成員とし、一つの地域に一つに限り市長が認定する民主的に運営される組織。
地域密着型サービス施設	定期巡回・随時対応型訪問介護看護、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）、複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）などの施設のこと。
地域密着型トップスポーツチーム	複数の都道府県にまたがって活動するリーグに所属し、地域に拠点を置くプロ若しくはこれに類するスポーツチーム。
中核市	人口20万人以上で、地域の中核的な機能を持つ市に対し、都道府県が行っている事務のうち、政令指定都市に準じた事務権限を移し、できる限り住民の身近なところで行政を行うことができるようにした都市制度。本市は平成11年4月に移行した。

用語

解説

低炭素・循環型社会	二酸化炭素の排出を減らし、有限である資源を効率的に利用するとともに再生産を行って、持続可能な形で循環させながら利用していく社会のこと。
ドメスティック・バイオレンス	同居関係にある配偶者や内縁関係の間で起こる家庭内暴力のこと。近年では婚姻の有無を問わず、元夫婦や恋人など近親者間に起こる暴力全般を指す場合もある。略して「DV（ディーブイ）」とも呼ばれる。
二地域居住	団塊の世代のリタイアで、都市住民に広がることが予想されている生活様式。都会に暮らす人が、週末や一年のうちの一定期間を農山漁村で暮らすもの。
パーク・アンド・ライド	通勤マイカーなどを郊外の駅周辺の駐車場に駐車（パーク）し、そこから公共交通機関を利用（ライド）する方法。公共交通機関の利用を促進し、都心部の渋滞緩和と排気ガスによる大気汚染の防止などに役立てようとするもの。
ハートアドバイザー	小学校において、課題を抱えている児童に、個別に寄り添い関わることで、心の安定を図り、暴力行為等の問題行動の未然防止及び解消をねらう支援員のこと。
パートナーシップ	協力関係。それぞれが対等の立場で他者の主体性を尊重し、かつ、相互作用による創造的な効果を発揮していく関係。
バイオマス発電	化石燃料を除く動植物等の生物から作り出される有機性のエネルギー資源を利用して、発電するしくみのこと。なお、光合成によりCO ² を吸収して成長するバイオマス資源を燃料とした発電は、取扱上CO ² を排出しないものとされている。
ヒートアイランド現象	都市の多くが人工的構造物に覆われて緑被地が少ないこと、人間の生活や産業の活動に伴う人工熱の放出、大気汚染等が原因となり都市部が郊外に比べて気温が高くなって、等温線が島状になる現象。
ビジネスマッチング	中小企業やベンチャー企業、企業家の事業展開を支援するため、それら企業等とビジネスパートナーの出会いの場を提供し、ビジネスパートナーとの事業連携や事業提携を図ろうとする活動。
ファシリティマネジメント	土地・建物・設備を対象として、経営的な視点から設備投資や管理運営を行うことにより、施設にかかる経費の最小化や施設効用の最大化を図ろうとする活動のこと。
MICE（マイス）	企業等の会議（Meeting：ミーティング）、企業等の行う報奨・研修旅行（Incentive Travel：インセンティブ旅行）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention：コンベンション）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event：エキシビション/イベント）の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。
ユニバーサルツーリズム	全ての人が楽しめるよう創られた旅行で、高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行のこと。
ユニバーサルデザイン	ユニバーサル（普遍的な、全体の）とデザイン（企画、設計）を合わせたもので、年齢や障がいの有無などに関わらず、最初からできるだけ多くの人々が利用可能であるようデザインすること。
幼保連携型認定こども園	幼稚園と保育所の機能を併せ持ち、教育と保育を一体的に提供する施設で、学校と児童福祉施設の両方の位置付けを持つ単一の認可施設。
溶融スラグ	廃棄物や下水汚泥を焼却した際に生成される灰を1200℃以上の高温で溶融させ、冷却し、固化させたもののこと。
ライフステージ	人間の一生における幼年期・児童期・青年期・壮年期・老年期など、人の一生を年齢や人生の節目ごとに分けた、それぞれの段階。
リーディングホスピタル	地域の医療水準の向上を図るため、先導的役割を果たす病院のこと。



付属資料

用語	解説
リスクマネジメント	リスク（危険性）を把握し、必要な防止策や、潜在するリスクを早期に発見し適切な措置を講じる手順を定め、リスクによる影響を最小限にする組織的な活動。
レアメタル	非鉄金属のうち、様々な理由から産業界での流通量・使用量が少なく希少な金属のこと。
ローリング	ローリングとは回転及び調整すること。ここでは、計画の修正・実行というサイクル（循環）を繰り返していく方法のこと。
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和のことで、仕事・家庭生活・地域生活・個人の自己啓発など、様々な活動について、自らが希望するバランスで展開できる状態。

第6次高松市総合計画

—活力にあふれ 創造性豊かな 瀬戸の都・高松—

編集・発行 高松市市民政策局政策課

〒760-8571 高松市番町一丁目8番15号

電話 087-839-2135 FAX 087-839-2125

ホームページアドレス <http://www.city.takamatsu.kagawa.jp>



第6次高松市総合計画